

MRI 造影検査説明書

(患者様用)

造影検査の目的と方法

【目的】：内臓や血管、病変などの状態を造影剤を使用し、より詳しく検査します。

【方法】：造影剤（ガドリニウム製剤）を入れる血管（腕の静脈に点滴します）を確保します。検査の途中で造影剤を点滴より入れて撮影します。造影後 30 分間は様子を観察し、変わりがなければ針を抜いて終了します。

造影剤の副作用

MRI の造影剤は比較的安全な薬剤ですが、まれに副作用が起こることがあります。

【軽い副作用】：頭痛、吐き気、嘔吐、じんましん、手足やからだの灼熱感、かゆみ、むくみなどが起こることがあります。そのほとんどは、自然に回復します。

【重い副作用】：呼吸困難、血圧低下、ショック、意識消失、心停止などが起こる可能性があり、適切な治療が必要となります。

また高度の腎機能障害や透析中の方は NSF（腎性全身性線維症）という重篤な副作用の危険性があります。

【遅発性副作用】：副作用の多くは、検査中に起こりますが、ごくまれに数時間～数日後に（比較的軽い場合がほとんど）起こることがあります。

検査後の注意点

造影剤は尿から排泄されます。（腎臓の機能が正常なら 2 時間以内に 60% が尿中に排泄され、24 時間後には 90% 以上が尿中に排泄されます。）注射した造影剤を速やかに排泄させるために、検査終了後は水分を多めにお摂り下さい。水分制限がある方は、主治医にご相談下さい。

以前に、造影剤を使用した検査で副作用が起こらなかった方でも、今回の検査で副作用が起こることがあります。副作用が起こった場合には、迅速かつ適切に対応いたします。ご理解いただき十分に納得された上で、造影 MRI 検査を受けていただきますようお願いいたします。